

総合事業 収益化困難

高松で事業者向け講演会

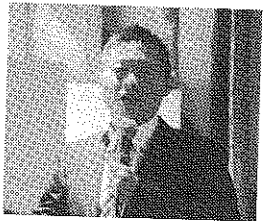
10月14日、一般社団

法人香川県福祉事業協会
会は高松市内で第2回
例会を開催した。「熊

本に学ぶ!!現場実践例
会 実体験から見えた
現場での備え」をテー

マに、万葉福祉会(熊
本県八代市)の山田朝
日取締役が講演した。

第1部の講演「総合
事業の実際と戦略」で
は、八代市で既に始ま
っている総合事業に対
し「制度の理解があい



▲講演する山田取締役

まい、細分化しすぎて
おり、サービスの違い
がわからない、請求先
の誤りなど多くの課題
が出てきたようだ」と
話し、「ビジネス性は
薄い」と指摘。「事業
所運営の観点からすれ

ば、総合事業を行うと
するならば、未来顧客の
獲得しかない。国の方
針でもボランティアの
活用が求められている
通り、専門職は働かな
い前提。報酬単価の観
点からも収益性を見い
だせない」と見解を述
べた。

第2部「災害時の介
護現場と備え」では4
月に発生した熊本地震
の被害状況を説明。

「震災時、施設では出勤
職員が減るなどの問題
が起きる。勤務体制の
見直し等が必要。また、
夜勤は一人勤務で、問

▲27面に続く▼

▲26面から続く▼

い合せの電話も多かつ
たが対応できなかつ
た。震災直後は電話が
ほとんどつながらな
くなるので、SNSを活
用した緊急連絡網を予
め作成しておくと言
い」などと語った。さ
らに「ボランティアが

全国から集まってくれ
るのは非常にありがた
いが、要援助者の体の
状態や介護方法など、
毎日同じ説明をしなく
てはならず、新人職員
と同じ状態。だから、
素人であっても雇用し
たほうが良い。熊本の
介護福祉士会としてC

—GA(ケア・ギバー
・アシスタント)構想
を提案しようとして動
いている。これは、短期間、
主に介護実技に係る研
修を実施するもので介
護事業者の裾野を広げ
ていく被災地における
雇用対策でもある」と
話した。